



北海道新幹線が開業 10 周年

青森西・長万部高の交流にも一役

北海道新幹線は2016年3月26日に新青森-新函館北斗間の149kmが開業しました。新幹線ネットワークが津軽海峡を越え、今月で10周年を迎えます。昨年12月に開業15周年を迎えた東北新幹線とセットとなり、首都圏と北日本を結ぶ大動脈として定着しました。次は2038年度の札幌延伸に向けて、工事が進んでいます。

北海道新幹線は2005年に工事が始まり、2010年の東北新幹線全線開通・新青森開業を経て、2016年に新型のH5系(写真①)を含む列車が運行を始めました。本来の工事区間は新青森-札幌間の361kmで、現在の営業区間はそのおよそ4割ということになります。青森県内は、新青森駅から38.5kmのところ奥津軽いまべつ駅(今別町)があります。この駅はJR北海道の管轄で、駅舎内に入るだけで、北海道の空気が味わえます。現在は東京-新函館北斗間が1日10往復、仙台・盛岡・新青森と新函館北斗の間にそれぞれが1往復、計13往復が定期運行しています。

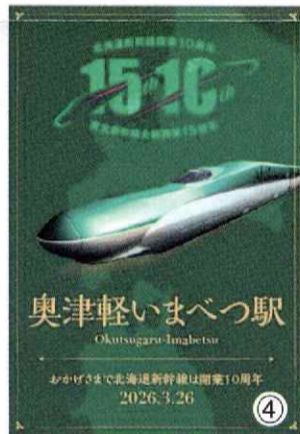
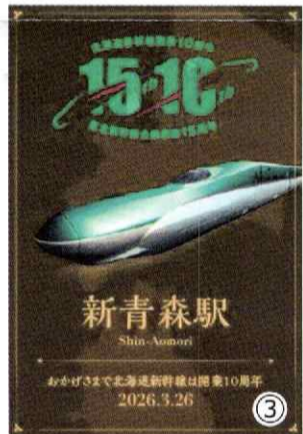
新青森-新函館北斗間の最短所要時間は57分、東京

-新函館北斗間の最短所要時間は3時間57分です。青函トンネルを挟む区間は、すれ違う貨物列車の安全に配慮して、260kmの最高速度を140~160kmに抑えています。大型連休中などは一部の列車で制限を緩和、東京-新函館北斗間が3時間51分まで短縮されます。

JR東日本の資料「FACT BOOK 2025」によれば、東京-函館間の年間輸送人員は2025年3月時点で航空機116万8千人に対し北海道新幹線が56万3千人、シェアは33%を占めています。

新幹線駅が新設される北海道長万部町の長万部高校生たちが、駅のデザインコンセプトを検討する作業の一環として、2021~2023年と新青森駅を視察に訪れ、青森県立青森西高校の生徒たちとの交流会も開きました。

2024~2025年は青森西高校の青西おもてなし隊の生徒たちが長万部高校を訪れ、同校の駅弁づくり企画を学ぶといった交流が続いています(写真②、2025年)。開業10周年の記念日に先立ち、3月21日(土)には、



青西おもてなし隊の生徒やJR東日本と関連企業、青森県などの関係者が、下りのはやぶさ24号、上りの17号で、お出迎えとお見送りを実施します。また、午後からは10周年記念カードやイギリストーストなどの記念セット100個を北海道新幹線利用者に配布します。

また、同日から5月31日(日)まで、新青森駅と奥津軽いまべつ駅で記念カード(写真③④)を配布します(数量限定・なくなり次第、終了)。

青森西高・2025年度地域貢献活動 70件に延べ493人が参加

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑦

青森県立青森西高校の青西おもてなし隊を中心とする地域貢献活動の2025年度の活動概要が、2月に開かれた同校の学校運営協議会で報告されました。ボランティア活動52件、おもてなし活動18件の計70件に延べ493人が参加し、前年を33人上回りました。特に2年生の活動が活発だったことが明らかになりました。

2025年度は、恒例となっているあおもり桜マラソン、三内丸山遺跡の縄文祭りなどの運営支援に加え、新たに、新青森駅のお出迎え、社会人インタビューといった企画が加わりました。

さらに、生徒の持ち込み企画として、「目の見えない方、見えにくい方のための福祉展」支援、あおもりマルシェ開催支援を実施しました。

ボランティア活動に参加した生徒は延べ301人と前年度より19人増加、おもてなし活動は192人で14人

増えました。最も多い生徒は18回、活動に参加しています。学年別では、1年生が112人、2年生が238人、3年生が143人と、2年生の奮闘が目立ちました。

「6回以上または28時間以上」の基準を満たせば、活動を単位として認定する仕組みがあり、2025年度はボランティア活動で9人、おもてなし活動は4人が単位を認定されています。

同校の地域貢献活動は、2010年の東北新幹線全線開通・新青森開業に合わせて発足した青西おもてなし隊を中心に展開されています。

青西おもてなし隊で活動することを目的に同校へ入学したり、きょうだいそろって青西おもてなし隊に所属したりする生徒もいるといい、指導に当たっている成田由希教諭は「2年生が元気なので、新年度も積極的に、さまざまな活動に携わってほしい」と話しています。



縄文中期末葉の埋設土器から 人の歯が2点出土

三内丸山遺跡

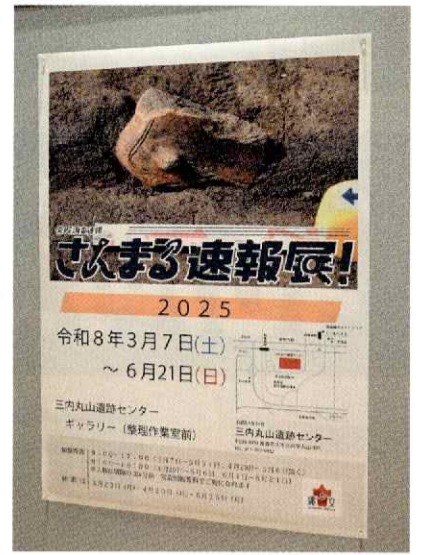
発掘速報展

三内丸山遺跡で6月21日(日)まで、2025年度の発掘成果を披露する「さんまる速報展 2025」が開かれています。今回の調査では、段ボール箱50箱分の土器片や石器、土坑墓が出土したほか、逆に埋められていた「埋設土器」の中から、人の骨や歯が見つかりました。第50次となる2025年度の発掘調査は、遺跡の西側に位置する第2号道路跡の北端付近で、5月から10月まで

行われました。過去の調査で見つかった土坑墓が造られた時期や、遺構の分布を確認することが目的でした。その結果、土坑墓には縄文時代中期後葉(約4,600年前)のものが含まれていることが分かりました。また、埋設土器3基のうち2基は逆に埋められており、このうち中期末葉の可能性のある1基から人の歯と骨片が出土しました。さらに、第2号道路跡の北西端付近に、掘立柱建物跡を

器から12歳以上の永久歯の可能性のある臼歯が2点見つかったこと、この埋設土器が「再葬」に伴う土器棺の可能性があり、これまで青森県内で出土していた縄文時代後期からさかのぼる最も古い事例と考えられることなどが紹介されました。

速報展は三内丸山遺跡センター内の整理作業室前にあるギャラリーを会場に開かれています。観覧時間は春の大型連休期間中を除く5月31日(日)までが9時から17時、大型連休期間中(4月29日～5月6日)と6月1日以降は9時から18時で、3月23日と4月20日、5月25日(いずれも月曜日)は休館です。遺跡を含む常設展の入場料(一般500円、大学生等250円、高校生以下無料)で観覧できます。



構成する柱穴群がみつけられました。第2号道路跡の東側には、土が大量に廃棄されていました。3月7日には報告会が開かれ、この埋設土

青森県立美術館 コレクション展

「教育版画」の足跡と意義を再考 棟方志功、豊島弘尚作品など紹介

青森県立美術館で4月12日(日)日まで、コレクション展 2025-4 が開かれています。県内小中学校で展開された、版画を通じた教育の足跡と作品を紹介する「コスモスの咲くとき-地域に学び、平和を刻む教育版画の"いま"」、そして工藤哲巳や豊島弘尚らの作品で構成する特集展示「非日常の世界」を中心に、棟方志功の作品群、イギリスの詩人ウィリアム・ブレイクの連作銅版画「ヨブ記」などを紹介しています。

月下旬には展示替えを行いました。この際、1973年に車力小学校の卒業生が制作した長さ30mもの版画絵巻「車力農業史」を、当時の版木から刷り直したバージョンが新たに添えられました。また、八戸市・湊中学校養護学級の生徒による1977年の大作「虹の上を飛ぶ船・完結編」(写真①)などがお目見えしました。

わった「車力農業史」誕生の舞台裏や、やがて車力小学校に校長として着任し、さらには後に、保管されていた版木を再び世に出すことになっためぐり合わせを披露しながら、教育版画に取り組んだ人々の信念や眼差しを紹介しました。

「コスモスの咲くとき」は2025年11月に開幕し、1

3月7日には、津軽地方西北部で父親とともに教育版画の中心的な役割を果たしてきた元西北美術教育研究会会長の藤田敏幸氏(65)=五所川原市在住=が、「版画

その上で、「版画教育とは、版画を上手に作ることを教えるのではない。版画を通じて、ものを作る喜び、楽しさを教えることだ」と豊かな人間性を育む「版画による教育」の役割を強調し、約20人の参加者が深くうなずきながら聴き入っていました。



教育から教育版画へ-その思想と技術を受け継いで-と題して講演しました(写真②)。藤田氏は、自らも小学生として制作に携

棟方志功の作品は、谷崎潤一郎の和歌を版画にした「谷崎歌々板画冊」(写真③)などが展示されています。

観覧料は一般700円(大学生400円)、18歳以下および高校生は無料。3月23日(月)は休館です。

見学時間 9:00～17:00(入場は閉館の30分前まで)
(春の大型連休中と6月1日～9月30日は18:00)

休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日

観覧料 一般:500円(400円) 大学生等:250円(200円)
高校生以下:無料

※()内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット提示で割引特典あり。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp

三内丸山遺跡センター

縄文 ⇄ 芸術

三内丸山遺跡センター 三内丸山遺跡センター 青森県立美術館

青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)

休館日 不定休(青森県立美術館HP参照)

観覧料 一般700円(560円) / 大学生400円(320円) / 18歳未満および高校生以下 無料

※()内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL https://www.aomori-museum.jp

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約15分・300円、タクシー(南口) 約10分、徒歩約30分
→ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約11分・300円、タクシー(南口) 約10分、徒歩約40分

Facebook ページ
Instagram アカウント

<ネット情報>
Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の文章・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榎引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
榎引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

FB ページ
Instagram
青森大学
社会連携
センター